

10年2月5日市警ニュース

JSS 和訳

安全注意報;飲酒運転

カナダにおける、死亡の原因となる犯罪の最多は飲酒運転である。オンタリオ州では、交通事故死の約4分の1は、原因が飲酒に関連している。又州内では16,000人以上が、飲酒運転がらみの刑事犯で有罪となっている。

市警は、飲酒運転が市民全てに危険を及ぼすものであると考えている。そして、飲酒運転の摘発、防止、そして我々全てに危険をもたらす人々のとり扱いには警戒を怠らない。

この週末市警は、飲酒運転を対象とする検問を数箇所で行い、又パトロールを行って警戒を強化する。取締りの合言葉は常に変わらず、「飲んだら乗るな」だ。

さらに誰もが、運転するに当たって責任ある選択を忘れないように助言する。

公共交通網、運転代行、タクシーないしは宿泊などの利用は正しい選択なのだ。

又酒に酔って歩き回ることも、きわめて危険なことである。車道によるめき出た、ないしは誤って踏み込んだ歩行者の多くが重傷を負っている。

さらに忘れてはならないのは、飲酒運転をしそうな、またはしている、さらにすることになる人を知った場合、すぐに911に通報することだ。あなたの近親者の命を救うことになるかもしれない。

(以下略)

JSS 説明

言うまでも無くこの週末はスーパーボールが開催される。このほかにもいくつかの、人気の高いスポーツイベントなどがあると警察は、飲酒運転の特別警戒を行う。そういったイベントがあると、友人などと集まってテレビ観戦などの後、帰宅時に飲酒運転をする可能性が高いと言うことようだ。

日本の場合、酒気帯び運転は血中アルコール濃度が15mg以上で取り締まられる(2009年6月以降)。当地カナダでは50~80mgで警報段階の免許停止、80mg以上で犯罪(米国の例では40mgが多いという)として扱われる。この差は、酒気帯びないしは飲酒運転に対する寛容度をあらわしているのではなく、体質など種々の要素から、アルコールの消化力が異なることに起因していると思われ、酒気帯びないしは飲酒運転に関する厳しい態度に変わりはない。なお当地では、飲酒時はもとより、酒気を帯びている場合、実際に車を動かしていなく、運転席に座っているだけで、違反となる。

記事を訳出した理由は、警察による摘発を受けないようにと言うことではなく、飲酒運転ないしは酒気帯び運転を、警察ないしは当地の社会が極めて深刻に認識していることの証左としてである。当地での滞在が一時であれ、長期ないしは永久的であれ居住する以上は、コミュニティーの一員として、他人に深刻な被害を与える可能性のある行動を行わないという、最低限の義務を果たそうと呼びかけるためである。